



令和5年度  
学校だより

吉井小学校だより

輝くよしいっ子

6月

6日 第13号  
文責：小西貴仁

## 環境学習出前講座「いろいろな生き物（生物多様性）」の学習！

6月5日（月）、4年生と5年生が総合的な学習の時間に、環境学習出前講座として「いろいろな生き物（生物多様性）」の学習を行いました。

講師として、いきものふれあいの里「ネイチャーセンター」所長大原賢二さんをお招きしました。大原さんからは、身近な生き物の中でも子どもたちに馴染みのある昆虫についてのいろいろなお話をしていただきました。昆虫は、「どのように今の昆虫の形に変わってきたのか。（昆虫の系統）」、「なぜ昆虫はこんなに多いのか。」、「昆虫の体の大きさや成虫になるまでに姿を変える様子はどうだろうか。」、「アサギマダラの成長の様子や日本全国に移動している様子はどうだろうか。」、「日本に住む外来種の生息状況はどうだろうか。」などについて、たくさん教えていただきました。

子どもたちは、3年生の理科の学習では、昆虫の体のつくりは「頭・むね・はらに分かれていること」や「むねに羽や6本の足があること」などを思い出しながら大原さんのお話を聞いていました。最後には、実際のカブトムシをはじめ、たくさんの昆虫の標本を見たり、実際のカブトムシの標本に触れたりする体験学習も行いました。子どもたちは、怖がることなく標本の昆虫に触れたり、珍しい昆虫の標本を食い入るように見たりしていました。

大原さんからは、「子どもたちには、『生物多様性』といわれれば少し難しいと感じるかも知れないけれど、自分たちの周りにはたくさんの昆虫を含め、いろいろな生き物がいることに気づき、その生き物の命を大切にすることを学んで欲しい。」という願いについても聞かせていただきました。

『大原さんから昆虫について学んでいる様子を紹介します。』



＜昆虫の説明に興味深そうに聞き入っている4年生の姿＞



＜身近にはいろんな生き物があることを学んでいる5年生の姿＞

私も2時間目と3時間目、4年生（2時間目）、5年生（3時間目）の子どもたちと一緒に大原さんのお話を聞きました。これまでに子どもたちは、1、2年生の生活科の学習では身近な生き物を探したり、3年生の理科の学習では昆虫の体のつくりについて学習していましたが、大原さんの昆虫の話を知っている子どもたちは、自分たちの身近にいる昆虫に深く興味を持っていました。また、昆虫標本にはいろいろな種類の昆虫がいました。子どもたちが一番興味を持っていたのが、実際のカブトムシの標本に触ることができたことでした。貴重なカブトムシの標本でしたが、実際に羽の部分や角の周りがある細かい繊維状の毛に触れたことで、新しい発見をしたようでした。今回の学習を通して、子どもたちにとっては、これまで以上に昆虫への興味が高まったように感じられました。私自身も、昆虫の羽の付き方が胸を3等分した2つ目から腹に向かってについていることに驚きと感動を覚えました。

